

# 信濃川 水辺の楽校つまりっ子ひろばの生き物

信濃川の植物

信濃川の昆虫

信濃川の水生生物

信濃川の野鳥

信濃川の生き物

信濃川の石



## ヒダリマキマイマイ

(オナジマイマイ科)

大きなマイマイで、から口は上から見て左側にある。山地のものは色が濃く、別種のように見える。チマキザサやチシマザサなどのササの葉を好んで食べる。



## オニグモ (コガネグモ科)

大形のクモで、雄は20mm、めすは30mmにもなる。網は夕方にはり、朝にはたたむ習性があるが、東北地方では朝になってもたたまないのがいるという。



## ヤミイロカニグモ (カニグモ科)

葉上に見られる普通種で、網をはらない。大きさは雄が5~6mm。めすは少し大きく7~8mmほどで、腹部が大きく、胸部の2倍程度にふくらむ。



## コガネグモ (コガネグモ科)

大形の種で、普通に見ることができる。雄は小さく5mm前後で、めすは20~30mmにもなる。写真はめすで、腹部の太い黒帯が特徴。雄にはこの黒帯がなく、全体が褐色。



## ナガコガネグモ (コガネグモ科)

普通に見ることができる大形種。めすは20~25mm、雄は5mm前後。写真はめすで、黒帯が細い。「つまりっ子ひろば」ではコガネグモ3種のうち一番多く見られる。



## ジョロウグモ (コガネグモ科)

めすは17~25mmでほっそりし、腹部には淡黄色地に淡青色の横しまが4本見られる。腹部腹面の先端部には2個の赤色紋がある。雄は7回、めすは8回も脱皮する。



## ワカバグモ (カニグモ科)

めすは12~13mmほどの大きさ。全体が淡緑色の美しい種。葉上で生活し、網をはらない。雄は小さく、頭胸部の前方、足の基部は褐色。山地でも普通に見ることができる。



## ヤハズハエトリ (ハエトリグモ科)

雄は7mmほどで、腹部に山形状白帯がある。めすは少し大きく10mmほどで、全体が黒褐色。腹部の山形状白帯は、前方と後方が接着し、中央部は広く離れる。



## アマガエル (アマガエル科)

水深の浅い池や水田に産卵する。成体は主に葉上で生活する。冬期は土中にもぐり、体色を灰色に変える。雪がとけると地表に現れ、緑色になる。



## シュレーゲルアオガエル

(アオガエル科)

成体のめすは45~60mmになる。雄はめすより少し小さい。水田や池の土手に卵のかたまりを産みつける。「つまりっ子ひろば」で見られるのは堤防を越えてきたのであろうか。



## カナヘビ (カナヘビ科)

体背面はつやがない。地上や葉上で、小さな昆虫を食べて生活する。だ円形の卵を土中に産みつける。「つまりっ子ひろば」には、トカゲ(トカゲ科)も多い。いずれも日本固有種。



## アオダイショウ (ヘビ科)

体背面のしま模様はシマヘビのような鮮明さがなく、黒っぽい。また頭部はシマヘビよりやや長く、個体数はシマヘビやヤマガカシより多い。